

新庁舎最終候補地は

スケン谷地区を最終提案とする

町長



しもむら かつゆき 議員 下村 勝幸

問

① 今議会において、新庁舎を明言することであったが、最終候補地はどこになったのか。

② 今後の新庁舎工事スケジュールはどのようになるのか。また、発行期限の迫る合併特例債の期限延長の見込みはどうか。

③ 新庁舎建築費用は今まで、総額12億円程度を予定していた。しかし、今回は山を削り谷を埋めるなど、かなり大がかりな工事となり、多額な費用が考えられる。新庁舎の造

成費用と建築費用の概算予算をどの程度で見込んでいるのか。

④ 津波時に垂直避難できる建物が少ない大方地区中心部では、今後工事の進む国道56号改良道路が錦野団地やスケン谷地区への避難誘導において有効であると考ええる。今回の津波でも高速道路が防波堤代わりとなり、被害を軽減した事実があるが、現在計画している56号改良道路でもそうした効果は見込めないか。また路面の高さや設計構造はどうか。

⑤ 今回の震災でも津波避難した住民が再被災した事例があった。本町ではそういった悲惨な事態に陥らないように早急な対応が求められる。海岸部付近にある地区は、集落の裏山への避難道整備が緊急課題であると考えられるがどうか。

⑥ 文教施設の避難道の整備スケジュールはどうなっているのか。特に上川口小学校の避難場所は13・3mと低く大変心配である。更にそこより高台に逃げられる避難道がないために、再被災を受ける可能性が高い。地元ではPTAを中心とした取り組みで、更に高台へ逃げられるための行動を開始しようとしている。行政はこうした動きを援助し積極的に支援すべきと思うがどうか。

答

大西町長

松田 総務課長

武政 まちづくり課長

① スケン谷地区を最終候補地として提案したい。

② 本年度内に用地測量、造成設計を終わらせたい。また、その際は都市計画法に従い開発協議が必要となる。来年度中には新庁舎設計のプロポーザル（提案書）、更に可能であれば実施設計にまで踏み込みたい。用地買収は24年度一

杯で行い、25年度には用地造成工事を進め、26年～27年度で庁舎建設を行うのが最短期間スケジュールと考えている。

国会では、被災地以外の合併市町村に対しても、震災起因の事情による影響がある場合は、発行期間の延長措置を講じるべきとし、被災地は10年、被災地以外の合併市町村は数年の延長をとしている。

この秋の臨時国会で法案が提出される可能性が高い。予断を許さないが、今後も引き続き要望活動を行っていく。

③ 土地造成の設計も終わらない段階では、概算の事業費を公表する状況にない。

④ 道路法線線上は役場北側で錦野団地へ上がる道路と交差するため避難誘導は可能と考える。早咲、田の口の起点部分の設計高が3・48m、そこから徐々に上がり役場中心部で約6m、そこからスケン谷地区の約10mに向かって上がっていく感じとなる。庁舎位置が変更となると設計変更も考えられる。国交省には避難誘導路としての効果が果た

せるように要望を行っていきたい。

⑤ 避難道の整備は重要と考えており、12月補正も検討している。震災後に各区長に対し避難道の要望取りまとめを行っている。議会終了後には現地へ入り確認をしたい。また、今年度は、現在測量の終わっている明神地区東の山や鞭地区等の10か所の整備から進めていく。

⑥ 佐賀地域では3つの文教施設と住宅地域が密集しているため8～9か所程度の避難道を整備する。大方地域では2つの小学校で実施設計中。24年度中には4つの小学校の対応を完了したい。上川口小学校の場合、現場を再度確認し保育所裏の山が理想であれば、避難所の指定変更を含めて検討していきたい。

